

ウチワヤンマ

Ictinogomphus clavatus



< 生物の写真 >

< 環境写真 >

分類群	魚 類		貝類・甲殻類		爬虫類・両生類		昆虫類			
種の特Ⓕ性	絶滅危惧種		危急種		希少種		外来種		指標種	
分布地域 (農政局単位)	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州	沖縄	

【分布】

本州、四国、九州に分布し、東北地方北部と九州南部では産地が比較的限られている。離島では粟島、佐渡島、淡路島、壱岐、平戸島、五島列島の福江島、天草諸島などに分布する。

【名前の由来】

和名は腹部末端のうちわ状の付属物に由来する。地方によっては、クルマトンボ、クルマヤンマ、オクルマなどと呼ばれる。和名の語尾にはヤンマとついているが、本種はヤンマ科ではなくサナエトンボ科である。

【形態的な特徴】

体長 70mm (腹長 雄:52～55mm、雌:55～60mm。後翅長 雄:41～45mm、雌:45～51mm) ほどで、雌の方が大きい。体色は雌雄に差がなく黒地に黄緑から黄色の条斑がある。また雌雄とも腹部第 8 節の側縁にうちわ状の付属突起をもつのが特徴である。本州 (静岡県以南)、四国、九州、沖縄には、本種とよく似た[タイワンウチワヤンマ](#)も分布するが見分け方は簡単で、うちわ状の付属突起の形状で容易に区別できる。

幼虫は体長 38～42mm (頭幅 8～9mm) ほどで、縦長の刺々しい形をしたヤゴである。体色は淡褐色で、腹部第 7～9 節の背面両側に黒褐色のはっきりとした斑紋があるのが特徴である。

【生態的な特徴】

成虫は 5 月から 9 月頃に見られ、とくに 6 月から 8 月に多い。幼虫は、おもに夜間、[挺水植物](#)や杭、護岸壁などの垂直な場所に[定位](#)して羽化する。羽化後、翅が伸び終わると暗闇の中を森を目指して飛んで行き、成熟すると再び水域に戻ってくる。水面から突き出した[挺水植物](#)や杭など、尖ったものの先に止まる習性があり、ときどき水面をパトロールして縄張り確保する。交尾後、水面を飛び回って、浮遊物が漂っている場所や沈水植物が水面直下まで繁茂している場所を探すと、雄は雌を放し、雌は単独で打水産卵をおこなう。卵は飴色でラグビーボールのような形をしており、細い粘着性の糸でつながっていて水中に入ると植物などにからみつく。幼虫期間は 2～3 年といわれている。

【生息環境】

おもに平地や丘陵地の挺水植物や浮葉植物が繁茂し、開放水面のある大きくて深い池沼や湖などに生息する。幼虫は[挺水植物](#)の根際や水底の泥の中にやや深く潜りこんで生活している。

【生息状況】

北海道や東北北部あるいは山地域は少ないものの、成虫は人工的な溜め池などを含め水深のある開けた水域に見られる。しかし、飛翔力の強い種であるため実際の発生地は成虫の確認地よりはるかに少ないと考えられる。

【生態系保全のための留意点】

幼虫は水中の深さ 2～10m のところで生活するため、この深さが酸素欠乏にならないことが必要である。成虫は移動能力が高く、都市公園・農村公園などにある人工的な水域に一時的に見られることもある。そのため、移動中に良い水域があれば定着する可能性もある。